平成25年2月23日

創造的教育＝福祉＝人間学会

会　長　　　宮　本　和　彦

創造的教育＝福祉＝人間学会会員の皆様へ

研究発表・総会2013のご案内

拝啓　梅花の候、会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、本学会も創立より2年目を迎え、会員数も100名を超えるまでに成長し、研究例会などにおきましても活発な研究活動が展開されるまでに至りました。また、本学会の研究誌である「創造的教育＝福祉＝人間研究」の刊行も実現することになり、いよいよ日本学術会議研究協力団体への申請準備も進められています。

　創立以来、第2回となります研究大会は、成蹊大学のご協力をいただき、別紙にあります日時、場所、内容で開催される運びとなりました。今回は、創立1周年の区切りとしまして、学際的性格を有する本学会のこれからの方向性を展望することも念頭におきまして、シンポジウムを開催する試みが計画されています。このシンポジウムを開くに当たり、数度にわたる準備ミーティングが行われました。すべての生活の局面においてグローバル化が急速に進む現代社会において、人間が人間として無条件に尊重される理念を守ることは、困難を極めるまでに至っている感があります。

しかしながら、進むべき方向性へのヴィジョンを見失ったとき、人も社会も迷走に陥ることになります。哲学においても、教育学や社会諸科学、あるいは人間の福祉にかかわる諸学問において、「あるべき姿」を描き世に提示することは、それ自体が難しくなっている現実があります。今回のシンポジウムのテーマを固めるにあたっては、最初、「グローバル化が進む世界における人間性のあり方を問う」というものをたたき台にしましたが、より命を支える自然との関連から人間社会のあるべき姿を探求するものといたしました。

会員の皆様をはじめといたしまして、多くの方々の方々に参加していただき、有意義な議論がなされますことを期待いたします。

敬具